泉中央地区社協だより

泉中央地区社会福祉協議会

第58号（令和8年9月20日）

だれもが安心してよりそえる街へ



地域をつなぐ夏・秋祭り



地域で毎年開催される大きなイベントとして町内会主催の「夏祭り」や「秋祭り」があります。住民どうしが顔を合わせ近況を報告しあったり、またお手伝いなどで新たに知り合う人が増えたり。このように楽しいイベントを通して、人と人とがつながることは安心して暮らせる街づくりのきっかけとなります。

地域のコミュニティを形作るこの町内の祭りは、近年どのように変化しているのでしょうか。

変化する祭り



●開催時期　酷暑の夏→気候の良い秋へ（泉中央第一、友愛町、野蔵）
●開催回数　夏・秋の年二回→秋1回のみ（泉中央第一）
●会場設営　重くて大きい大型テント→軽量小型テント（野蔵）
●盆踊り　「しばらく前からやっていない」（泉中央、第一ほか）
●屋台　キッチンカーを導入（野蔵）





最も大きな課題は人手が足りないことです。
子どもの数が減り、子ども会の保護者のお手伝いが減った。
盆踊りの担い手だった老人会がなくなった。役員が高齢化…。



手伝いたいひとと手伝ってほしいひと

みんなで広く支える祭りのカタチ



スタッフ不足をどう補っているのか、各地区を見てみましょう。

◆医療機関とのつながりから、毎年お手伝いをつのっている（泉中央町内会）
◆大学より会場提供や学生ボランティアの協力をいただいている（本田町町内会）
◆ホームセンターが工作教室のブースの出店をしている（友愛町自治会）



企業や団体が目に見える形で参加することで、地域との一体感も高まります。泉中央地区内には学校や様々な団体・事業所がたくさんあり、中には地域貢献に理解が深い企業もあるでしょう。手伝いたいひとと手伝ってほしいひととをマッチングし、多方面からコミュニティを支える仕組みがあったらいいですね。

地域の祭りをこれからも継続していけるために、広く皆さまにご協力をお願いいたします。

『七北田・健康・マージャン・ サロン（NKMS）』始めました

七北田町内会　北村俊幸

七北田町内会のサロンでは『男性の参加が少ない』ことが課題となっていました。そこで『男性を誘い込むにはマージャンしかない！』ということで、今年度から健康マージャンサロンを始めることにしました。

早速、3 月に回覧や口コミで参加者を募ったところ、百戦錬磨の老雀士や全くの初心者等々の 11 名の応募があり、3 月 19 日（木）に第一回『七北田健康マージャンサロン』を開催しました。噂を聞いた他町内会の方や女性の参加もあり、思いの外、盛り上がりました。

その後 4 月 15 日（水）・5 月 20 日（水）と月一回のペースで開催したところ、『日曜日にも開催して欲しい』との声があり、6 月からは水曜日・日曜日と月二回のペースでの開催を続けています。

参加費千円で 10 時～15 時まで、お茶一本・弁当付きで楽しんでいます。特に弁当は町内の某居酒屋に『特製健康マージャン弁当』として発注するのが恒例となってきて、味良く・コスパ良く、参加者全員で『麻雀談義』しながら昼食の時間も楽しい会話で盛り上がっています。



落語でフレイル予防

天神沢1丁目町内会　髙橋利之







天神沢ふれあいサロン会は、地区社協天神沢支部・天神沢一丁目町内会・ゆうゆうクラブ（老人クラブ）の三団体共催のもと、日頃お会いすることが少ない近隣の皆さんや家に閉じこもりがちな方々を交流の場に誘うことで、フレイルの予防に努めています。

6 月 20 日に開催されたサロン会では、「東北大学学友会落語研究部」の学生 2 名による落語会を実施し、40 名が参加しました。落語終了後、4 つのグループに分かれてディスカッションを行いました。提示された課題についてみんなで話し合うことで親睦も深まり、フレイルの予防について多少なりとも役立ったと考えています。

第 2 回サロン会は 10 月 17 日（土）、「昔あそび」を予定しています。

■街の風～編集後記～

泉中央町内会　紺野　ますみ

自分のスマホが寿命で、替えを用意しました。ところが住所録やメールなどのデータを移そうとするもうまくいきません。たくさんあるパスワードや ID、「認証されません」「ロックされました」などのメッセージが堂々めぐりで、こりゃだめだと匙を投げました。スマホが水没し壊れてしまった息子も、新しいスマホへのデータ移行に四苦八苦でヤレヤレです。

よそでも、高齢者が「必要ないサイトが延々と出てしまう」「詐欺かしら」と困っているのを見かけました。おそらく、消去すれば出ないのでしょうが、やり方が分からず右往左往。

身分証や支払いなど、今やインフラとして欠かせないスマホ。もう少し一般の人が使いやすくなるといいですね。



この広報紙は福祉振興助成金を利用しています